

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	872100904		
法人名	医療法人社団 健晴会		
事業所名	グループホーム ますおか内科		
所在地	ひたちなか市はしかべ1-2-3 (電話) 029-354-6511		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年6月24日

【情報提供票より】 (平成19年11月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤7人、非常勤9人、常勤換算6.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 350 円
	または1日当たり		1,200円

(4) 利用者の概要(平成19年11月17日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	1	要介護2	7
要介護3	2	要介護4	5
要介護5	2	要支援2	1
年齢	平均 78.3 歳	最低 45 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ますおか内科クリニック、 吉元歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は「その人らしさを尊重し、笑顔で健やかに過ごせるよう支援する」の独自の理念を作りあげ、玄関に掲げている。
利用者が安心して暮らせるようホームの向い側に医療法人のクリニックがあり、24時間体制で緊急時にも適切な医療が受けられるよう支援している。
職員は利用者の生活歴を把握しており、日常的な外出や楽しみ事を共有するとともに、居心地の良い共用空間でゆったり家庭的に暮らせるよう、柔軟な支援を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営者・職員は改善項目について会議を持ち、利用者のペースの尊重や相談・苦情等の若干の改善は見られたが、金銭管理に至っては出納帳が不透明であり、より一層の改善取り組みを期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者はサービスの評価と意義や目的について職員に伝え、ミーティングなどで話し合いにより作成するとともに、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 情報提供票に運営推進会議の参加者を明示し、2ヵ月に1度開催している。 会議では委員と意見交換を行うとともに、会議録を作成してホームの理解が得られるよう努力している。 職員は市役所を月1回程度訪問し、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関・ホールなどに苦情案内を掲示しているが、家族等が気軽に意見・苦情等が出しやすい取り組みまでには至っていない。 市の介護保険担当課などの第三者機関を重要事項説明書に明示するとともに、意見箱・アンケート用紙などを設け、家族等が意見を出しやすい体制づくりが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は、地域のボランティア「遊楽会」の月1回の訪問やお祭りの行事の参加、小学校との交流など地元の人々との交流に努めている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「その人らしさを尊重し、笑顔で健やかに過ごせるよう支援します。」の独自の理念を作りあげ、玄関に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念の掲示や唱和、会議等で理解を深めるなど共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域のボランティア「遊楽会」の月1回の訪問や祭り等の行事への参加、小学校との交流など、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・職員は改善項目について会議を持ち、利用者のペースの尊重や相談・苦情対応を図る等若干の改善は見られたが、金銭管理に至っては出納帳が透明性に欠けている。 管理者はサービスの評価と意義や目的について職員に伝え、ミーティングなどで話し合いにより作成するとともに、サービスの質の向上に努めている。	○	金銭管理等に、より一層改善への取り組みを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報提供票に運営推進会議の参加者を明示し、2ヶ月に1度開催している。 会議では委員と意見交換を行うとともに、会議録を作成してホームへの理解が得られるよう努力している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は市役所を月1回程度訪問し、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりは便りや面会時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関・ホールなどに苦情案内を掲示しているが、家族等が気軽に意見・苦情等を出しやすくする取り組みまでには至っていない。	○	市の介護保険担当課などの第三者機関を重要事項説明書に明示するとともに、意見箱・アンケート用紙などを設け、家族等が意見を出しやすい体制づくりが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が多く利用者へのダメージを防ぐ配慮に欠けている。	○	運営者は職員の離職を出来るだけ抑え、利用者のダメージを防ぐ体制づくりが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は採用時や段階に応じた研修会を受講し、研修報告書を作成してミーティング等で職員間の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員・グループホーム連絡協議会に属し、研修会などに参加しながら同業者と積極的に交流を持つことによって、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族等に見学に来て貰い、利用に向けた話し合いを行うなど、安心して利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴を把握しており、利用者とともに掃除や洗濯たたみ・食事の準備など得意とすることができるよう場面づくりをしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の一人ひとりと向き合い、日々のかかわりや言動・表情から本人の思いや意思の把握に努めている。 また、困難な利用者には家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は本人や家族等の意見を聞くとともに、日々の生活の中で気づいた点や意見を職員が取りまとめ、カンファレンスを開いて作成している。 また、確認した家族等からの認印を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の見直しは3カ月ごとに行っているが、利用者の状態に応じた見直しをするには至っていない。	○	介護計画の見直しは利用者の状態に合わせた具体的なプランを作成することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族等の要望に応じて、通院介助や入院・退院の付添いの支援をしている。 また、24時間の医療体制の柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望により、医療機関を決めている。 協力医による月1回の往診のほか、随時あるいは夜間往診もできるよう、適切な医療体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じて本人や家族等・医療機関と話し合っているが、方針の作成や体制づくりには至っていない。	○	重度化や終末期の対応について契約書に明示するとともに、マニュアルの作成、職員や家族等と情報交換を行い、事業所としての対応方針や支援に向けた体制作りが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者の排泄や入浴介助を行う際に、利用者のプライバシーを尊重するなど、誘導の声かけや支援は十分に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの体調に配慮し、本人の気持ちを尊重しながら柔軟な対応をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の力量を把握し、配膳や下膳の手伝いをして貰っている。 また、職員は利用者とともに食卓を囲み、サポートしながら楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでは週3回の入浴支援となっている。 利用者の希望に応じて入浴回数や時間など午前・午後でも入浴できるよう支援している。 また、安心して入浴できるよう福祉用具の準備をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は一人ひとりの生活歴を把握し、園芸や様々なレクリエーション・夏祭り大会などを企画し、利用者の役割や楽しみを見つけて支援している。 また、新聞や雑誌などを購読し、自由に読むことができる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者とともに散歩しながら、小学校・公園など希望に応じた外出支援を行っている。 また、海浜公園などへのドライブを企画するなど、日常的に外出できるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの立地条件上道路に面した交通量が多い場所に建っており、利用者の安全面を配慮しやむを得ず、玄関に施錠している。 本人や家族等には十分に説明し理解を得ている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2・3回の夜間訓練も含め、避難訓練を実施している。 避難場所も近隣にあり地域の方々に声をかけるなど、協力が得られるよう働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事量や水分量を記録し、1日全体を通して把握している。 また、利用者の身体機能に応じた量や刻み食・おかゆなど調理方法を取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂や台所・居室は明るくカーテン等で適度に陽光を調節している。 廊下は明るく広く各居室にはお気に入りのれんが掛けてあり、居心地良く過ごせるよう工夫している。 また、季節の花を活けるなど季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は本人や家族等と相談のうえ、馴染みの物・時計・写真・椅子・小物入れなど持ち込んでおり、安心して過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。